

実用英語演習・総論

2 units 2nd-year(1st semester, 2nd semester), 3rd-year(1st semester, 2nd semester)

欧米言語コース教員, 国際文化コース教員, Shoichi Yoshida · PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES

Target) この演習は、欧米言語コースと国際文化コースが共同で開講する両コースのコース共通科目である。中学、高校、更には全学共通教育で培ってきた英語の能力を、より実用的なコミュニケーションの道具として使えるレベルに高めることを目標とする。したがって、演習での力点は文法事項などを教えることよりも、基本的な語彙を習得し、日本語を介さずに英語を英語のまま理解するためのトレーニングを与えることに置かれる。そのため、テキスト教材のみならず、小説の朗読、ニュース、ドキュメンタリー、映画やドラマなどの音声視覚教材を駆使し、現代の生きた英語によるコミュニケーション能力の向上をはかる。それはまた、TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験に対応するトレーニングにもなる。受講者は与えられた課題をこなすだけでなく、演習で提示されるトレーニングを自ら実践することが要請される。言うまでもなく、実用英語のレベル向上は、日々の自発的トレーニング抜きには期待できない。この演習を刺激として、英語によるコミュニケーション能力という一生の財産となりうる確かな技能を身につけて欲しい。

⇒ Yoshida (1-1N11, +81-88-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL
(Office Hour: 水曜 12時から 13時)

Outline) 演習 I, II, III すべて、新カリキュラムの同種の授業と合併して開講されるので、そちらのシラバスを参照のこと。

Keyword) *read, write, listen, speak*

Notice) 個々の担当者のシラバスを参照すること。

Goal)

1. 演習 I: 実用的なコミュニケーション能力の基礎として、1) 英語を英語のまま理解する能力を養成する。2) 多様な英語を聞き取る能力を養成する。3) 徹底的なドリルを通じて英語を滑らかに口から出せるように訓練する。
2. 演習 II: 演習 I を踏まえ、より実用的な英語の運用能力を獲得する。
3. 演習 III: ネイティブ教員による指導を通して、総合的な英語のコミュニケーション能力を養成する。

Schedule) 個々の担当者のシラバスを参照すること。

Evaluation Criteria) 個々の担当者のシラバスを参照すること。

Re-evaluation) 行わない。

Textbook) 個々の担当者のシラバスを参照すること。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219212>

Contact)

⇒ 欧米言語コース教員

⇒ 国際文化コース教員